

小児期に生活习惯病予防

研究室から

大学はいま



人生の早い時期での生活習慣や環境が、その後の体格、血糖値や血中脂質値に影響を及ぼすかが明らかになります。習慣や環境が、その

が増えてきましたが、これはそのまま成人期のがんや循環器疾患など生活习惯病に移行しやすいと考えられています。当分野では、子供が肥満や高血糖、高脂血症にならぬいような生活习惯や環境を明らかにすることです。将来の生活习惯病予防につなげようとしていま

す。

この目的のために、動物や細胞を用いた実験ではなく、多くの一般の方々から情報をいただく

中でも食習慣は、1日

あたりの総カロリー、脂肪酸、ビタミン類など各種栄養素・食品群の摂取量として評価しています。望ましい生活习惯がわかり、いったん身につけられれば、それは成年人まで継続されやすく、まさに小児期は生活习惯病の既往歴、薬剤、サプリメント、携帯の使用など

岐阜大大学院医学系
研究科医学・予防医学分野

永田知里教授

という調査方法（疫学）が基本となります。現在は、約3千名の小学1年生を対象に、中学まで追跡する調査を行っています。追跡開始時には保護者の方にお子さんの食事、運動、睡眠などの生活习惯、アレルギーなど

についてお答えいただきますが、全体で集計することにより、どのような習慣や環境が、その後の体格、血糖値や血中脂質値に影響を及ぼすかが明らかになります。習慣や環境が、その